

広島からの宿題

岐阜市立岐阜清流中学校 3年

白木道平(しらき みちへい)

僕たちは、先月広島へ修学旅行に行ってきました。そこでの平和学習の一つとして、平和記念公園内をガイドの方と一緒にまわりました。その方からは、どのような思いで記念公園内の様々な碑などが建てられているのかなどを学びました。

まず、平和の鐘について次のように説明してくださいました。

「その鐘は世界を表していて、鐘には国境のない世界地図が描かれています。これは、世界がひとつになるということを表しています。しかし、私が一番伝えたいことは、別の願いです。それは、鐘の表側に鏡がつくられていることです。これは、自分の顔を見て、心の中をのぞき、きれいな心を本当に持っているのかを考え直す機会となるように、という思いでつくられています。」と。

その時、僕はふと広島に行く前に国語の時間に学習した、石垣りんさんの「挨拶」という詩を思い出しました。その中から僕は、一人一人の顔や心の中に戦争は存在し、いつも近くにあるから油断するなという想いを読み取りました。つまり、私たちが日々の生活の中で常に自分の心と対話し、心の中を見つめ続けなければ、今存在する平和はすぐに崩れていってしまうのではないかと感じたのです。

そんな話をしながら公園内を歩き、原爆死没者慰霊碑の前では、突然こんなことをおっしゃいました。「私は変わったガイドで、普通はあそこで一人一人手を合わせるように言うのだけど、私はそんなことは言いません。なぜなら意味がないと思うんです。手を合わせても私たちには、過ちを繰り返さないように止める力はないんです。ここで宿題を出します。一人一人がどんなことをすれば過ちを繰り返さないようにできるのかを考えてください。それを考えてから、手を合わせるのなら、意味があると思います。」と。

僕は、この宿題が出されて、自分にできることを考えてみました。その中で、家族や同じクラス、同じ学年、学校中の人、そして今聞いてくださっている方々に広島での話を伝え、意見を交流し、これを続けることが大切なのではないかと考えました。ここで、皆さんにもこの宿題について考えてもらいたいです。一体どんな事をすれば平和に近づきますか。

さてここまで、ふたつの話をしてきました。僕はこのふたつの話を受けて言いたいことがあります。それは、平和という大きなことであっても、まずは一人一人、自分からであるということです。まずは、平和について、自分の今の心を見直してください。戦争がいけないものだということは、きっと誰でも分かっていると思います。僕が言いたいのは、差別や偏見、いじめなど身近にある争いのことです。今まではそれほど深く考えたことはないかもしれませんが、それによって傷ついている人がいるということを思い出してほしいのです。身近な人を傷つけることが「挨拶」の詩から考えられる油断という意味なのです。

こうした意見や考え方の違いによる問題がひとつひとつ重なっていくと大きな恨みとなり、民族や国規模のものがやがて戦争となるのです。このような問題をどうしたら良いでしょうか。きっと一人一人が考えを変えて、そして相手と言葉で話すと良いのではないのでしょうか。そして考えたこと、新しく分かったことを家族など身近な人に伝え、より良い考えを広めてください。

誰もが嫌で辛い思いをせずに生活できる。そのためにはどうすれば良いかを考え、伝える。これが広島からの私たちに突きつけられた宿題なのです。